



サウジ原油が11カ月ぶり高値 9月積み、減産響く

輸入原油が一段と上昇している。サウジアラビア産の代表油種「アラビアンライト」の9月積み価格は8月積みから7.6%（6.82ドル）高い1バレルあたり96.53ドルと、2022年10月以来11カ月ぶりの高値となった。中国の堅調な需要やサウジの積極的な自主減産による国際価格の上昇を反映した。

日本が長期契約で輸入する原油は直接取引（ダイレクト・ディール=DD）原油と呼ばれる。価格はアジア指標であるドバイ原油とオマーン原油の月間平均価格に油種ごとの調整金を加減して決まる。9月の両原油の月間平均価格は93ドル台と8月から8%上昇したのに加え、調整金を引き上げたことも影響した。

中国の需要が多いとされる重質の「ヘビー」は8.1%（7.12ドル）上昇の94.63ドルと22年9月以来1年ぶりの高値。中国の石油精製処理量は8月に過去最大となり、小売売上高や工業生産といった経済指標にも底打ち感が出ている。

供給面でも、サウジは7月から日量100万バレルの自主減産を始め、9月上旬には23年末まで実施する方針を打ち出している。主要産油国でつくる石油輸出国機構（OPEC）と非加盟のロシアなどのOPECプラスが22年11月から実施している減産を合わせると日量560万バレル超と世界需要の5～6%にのぼる。需給逼迫を背景に、市場では原油価格には当面上昇圧力が続くとの見方が多い。



日本通運、水素燃料電池トラック導入 23年末までに20台

日本通運は3日、水素燃料電池（FC）トラックを2023年末までに20台導入すると発表した。同社がFC車両を導入するのは初めて。電気自動車（EV）トラックより短時間の補給で長く走行できる。輸送網全体の二酸化炭素（CO2）排出量を削減する「スコープ3」の動きが強まる中、脱炭素対応を急ぐ荷主企業の需要に応える。

小型の2.95トン車を取り入れる。すでに関東甲信越で6台導入しており、今後は水素の充填設備が比較的多い湾岸エリアを中心に拡大する。1回10分の充填で走行できる距離は260キロメートルと、1回11時間の充電で100キロメートル前後のEV車両に比べて短時間の補給で長く走れる。導入するFC車両メーカーは非公表としている。

日通はEV車両も9月末時点で5台保有しており、24年1月までに11台に増やす予定だ。今後のFCとEVそれぞれの導入計画については「インフラの整備状況や車両性能、使い勝手を確認した上で方向性を検討する」（同社）としている。



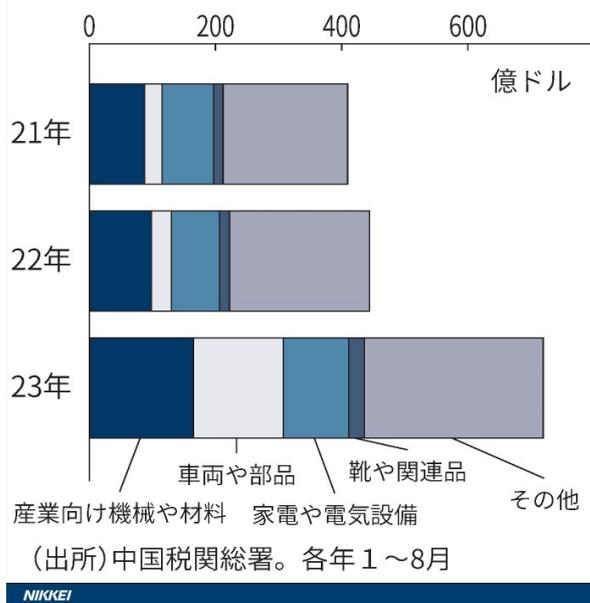


中国・ロシア間の貿易が拡大 潤う国境の街

中国とロシアの貿易が急拡大している。2023年1～8月の貿易総額は前年同期比32%増えた。中国側から機械や車両の輸出が増えており、ウクライナ侵攻後に国際社会から制裁を受けるロシアを中国が支援する構図だ。中国の国境の街ではトラックが長蛇の列をつくり活況に沸く。

中国税関総署によると、中口間の輸出入額は1～8月に1551億ドル（約23兆円）と、前年同期比32%増えた。ロシアのミシュスチン首相は23年に過去最高の2000億ドルに達するとの見通しを示した。22年通年は1902億ドルだった。

中国の対ロシア輸出額は急増した



中国の対ロシア輸出額は1～8月に718億ドルと前年同期比62%増えた。品目別にみると車両とその部品が4.5倍に急増し、全体の約2割を占めた。普通車だけでなく、トラックや建設機械も増えている。

もともとロシアでは日本や欧州の自動車のシェアが高かったが、ウクライナ侵攻後に主要メーカーが撤退し、中国車の需要が高まった。中国からロシアへの自動車輸出台数（車台のみを含む）は1～7月に約42万台。中国車の輸出全体に占める割合は約16%と、前年同期比12ポイント上昇した。

日本政府は今年8月、排気量が1900cc超のすべてのガソリン車などを輸出禁止の対象に加えた。対ロシア輸出を維持していた中古車も対象となり、ロシアでは中国車への傾斜がより強まった。

中国東北部にある内モンゴル自治区の満洲里。記者が8月下旬に訪れると、ロシア側につながる税関で機械やコンテナを積んだトラックが行列をつくっていた。税関の営業時間は午前8時から午後8時までだったが、輸出増加に対応するため、今年から24時間に変更したという。



満洲里は国境を接するロシアに鉄道やトラックで物資を運び込む拠点都市だ。貿易会社の女性担当者は「ロシアへの輸出は今年、去年の2倍くらいに増えた」と語る。主要な商品は中国製の建設機械だという。別の貿易会社幹部も「長城汽車や奇瑞汽車など中国の中古車輸出が増えた」と明かした。

家電や電気設備の輸出額は1～8月に37%増、靴や関連品も54%増えた。東京に拠点を置くロシアNIS経済研究所の中居孝文所長は「携帯電話やパソコン端末なども西側諸国からの輸入が大幅に減り、小米（シャオミ）など中国ブランドがシェアを広げている」と指摘する。

街は活況を呈している。中心部にはロシア料理の飲食店が建ち並び、民族衣装を着たロシア人の女性が踊る。極東ウラジオストク出身のダンサーは「約2カ月前に満洲里に来た。中国はお金を稼げるからとても良い場所だ」と話した。

中国のロシアからの輸入額は1～8月に832億ドルと、前年同期比14%増えた。原油や石炭、天然ガスなどのエネルギー関連が全体の約7割を占める。

中居氏は「インドもロシアから原油などの輸入を増やしているが、ロシアへの輸出は少ない。中国とロシアはそれぞれ輸出入を均衡させており、相互依存の関係にある」と指摘する。



ドル150円台乗せ直後に急落、介入有無「ノーコメント」と財務省

ニューヨーク外国為替市場で3日、ドルが約11カ月ぶりに150円台に乗せた後、すぐに1円超急落した。米金利の上昇で円安に歯止めがかからない中、市場では日本の当局によるレートチェックや介入が警戒されており、神経質な値動きが続いていた。

ドルは米東部時間の午前10時（日本時間午後11時）過ぎ、150円16銭まで上昇。直後に1円超急落し、その後147円30銭台まで下げた。ドルが150円台に乗せたのは昨年10月以来。足元は149円台前半まで戻している。

日本の財務省幹部はロイターの取材に、介入の有無については「ノーコメント」とした。

ドル/円の急動意が介入によるものだったか否かについては、市場の見方も分かれている。

TDセキュリティーズのグローバル・マクロ戦略責任者、ジェームズ・ロシター氏は「介入のように見えるが、介入ではないだろう。力強い動きが見られない」と指摘した。

一方、トレーダーXのマーケットアナリスト、マイケル・ブラウン氏は「正直なところ、介入としか言いようがない。1ドル=150円のラインを超えた瞬間に大きく下落している。（介入でなければ）信じられないような偶然が重なったとしか考えられない」と述べた。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	8/22～8/28	85.55	▲0.27	146.92	0.15	79.05	▲0.17
	8/29～9/4	87.74	2.19	147.16	0.24	81.21	2.16
	9/5～9/11	90.87	3.13	148.27	1.11	84.74	3.53
	9/12～9/18	93.92	3.05	148.21	▲0.06	87.55	2.81
	9/19～9/25	94.26	0.34	149.03	0.82	88.35	0.80
	9/26～10/2	94.40	0.14	150.41	1.38	89.30	0.95
水曜日～ 火曜日	8/23～8/29	85.58	0.05	146.98	0.08	79.11	0.09
	8/30～9/5	88.31	2.73	147.16	0.18	81.73	2.62
	9/6～9/12	91.25	2.94	148.30	1.14	85.11	3.38
	9/13～9/19	94.52	3.27	148.46	0.16	88.25	3.14
	9/20～9/26	93.98	▲0.54	149.28	0.82	88.23	▲0.02
	9/27～10/3	94.15	0.17	150.60	1.32	89.18	0.95

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート